

ふしぎなたけのこ



松野 正子 さく 瀬川 康男 え
福音館書店 1963年 780円
28ページ 19×26cm

たけのこを堀りに行ったたろが、脱いだ上着をたけのこにかけると、そのとたん、たけのこがぐぐぐっと伸びました。たけのこは果てしなく伸びてゆきます。たろはたけのこにしがみついたまま降りられなくなりました。困った村人達がたけのこを切り倒すと、思いがけないことが起こります。

なにしろたけのこの伸び方が半端じゃありません。いくつもの山々の木を押し分けて、夜になり、朝になって、やっと地面に倒れるぐらい長いのですから。そんなたけのこが横長の画面いっぱいに描かれています。また、村人達の表情と、躍動感のある動きが、ぐんぐんと伸びてゆくたけのこのように生き生きと描かれ、最後はみんな大満足でお話が締めくくられます。



フランスのいえで

フランス絵本シリーズ
ラッセル・ホーバン さく
リリアン・ホーバン え
まつおか きょうこ やく
好学社 1972年 1020円
1冊 26×21cm

妹が生まれたフランスはかまってもらえなくなったような気がして、食堂のテーブルの下に家出します。すると、お父さんとお母さんが、フランスがいなくなってどんなにさみしくなったか話しはじめました。

下の子ができた子どもの気持ちは複雑です。そんな子どもの気持ちを理解して、しっかりと受け止めている親の姿が印象的です。また、自分の気持ちを歌ったフランスの歌がかわいらしく、この絵本の魅力をますます引き立てています。

親と子の愛情のこもった表情が、やわらかな線でやさしく描かれています。甘くなり過ぎない淡い色彩がすてきです。